



スポーツボランティアの交流情報紙

SVニュース

発行 SV2004 (宮城県仙台市)

発行日 2010年1月15日 (月1回発行)

私たちはスポーツボランティア活動を応援します

今の特集

スポーツボランティア・フリートーク・フェスタ

1. 第一部 仙台のスポーツとボランティア 1P~3P

2. 第二部 変わるスポーツボランティアの世界 4P~6P

3. SV2004紹介・編集後記 7P~8P

スポーツボランティア・フリートーク・フェスタ報告

月日 2009年12月20日(日) 13:00~16:35 場所 仙台市青年文化センター 研修室2

参加者 54名 (講師及び関係者含む)

第一部「仙台のスポーツとボランティア」これまで、そしてこれから

1. 株式会社楽天野球団 取締役コミュニケーション部長 西村 亮 氏

<ボランティアとの関わり>

前職は電通パブリックリレーションズ、その前が8年間サッカーワールドカップに関わる仕事をしてきました。そこでは98年から広報部にはいてメディア対応をやりまして、横浜に国際メディアセンターを作ることや、記者証を発行する(AD)とか、資料をどう準備するか、インターネットどうするか、コピーどうするか、などということが主な仕事でした。

メディアセンターにご協力いただくボランティアを募集しましたが、1995年、阪神淡路大震災にボランティアが集まったということもあって、たくさんの方々に協力いただくことが出来ました。今回、次の仕事で選んだ楽天で再びボランティアに関わるというのは奇遇のような感じがします。



以前アメリカのワールドカップに行った人の話を聞きました。あるテレビ局の人がメディアセンターにいったところ200人以上並んでいたといいます。結局記者証の発行には1時間以上かかったのですがボランティアの人が2~3人おきに話をしており、片言の日本語も話していたそうです。実はそのボランティアの仕事は列を作っている人に飽きさせないという仕事だったのです。

その話しを聞きそこまで出来るのはボランティアの力だと思います。ボランティアイズムとはなんぞや、ということは未だ答えが出ていない段階で試行錯誤が続いています。一方でボランティアの力があって楽天イーグルスもここまでこられたと思います。ぜひ、これから(一緒に)答えを出していきましょう。

<今年の楽天イーグルス>

今年はどんなシーズンだったかといえば、チームの成績は77勝66敗1分となり、創設以来初めて勝ち越してリーグで2位になることが出来ました。5年以内に3位になればいいと思っていたのですがそれが実現できクライマックスシリーズを仙台で開催できたのです。そのクライマックスシリーズでは宿敵ソフトバンクを破りました。身近にいて今年のチームには勢いがありこれはいけると思いました。しかし、札幌での日本ハムファイターズとの第1戦、あれが全てでした。



それでもチームにとっては大きな1年でした。過去、いかに弱かったかを1位とのゲーム差で見ると、一年目は136試合で51.5ゲーム差でした。それが着実にチームは力をつけて、今年は5.5ゲーム差まで近づきました。では楽天がリーグの中でどの程度のチームだったかを数字でみると、投手部門でパ・リーグで1位になったのは、先発勝ち数60。これはひとえに、岩隈、田中、永井の3本柱のおかげです。これは何を意味するのかというと先発の3本柱は必ず勝つということですが、打撃とりわけ長打力に課題がありました。しかし、先制点は比較的とっていて後半は特にそうでしたし、また守備率がリーグ2位でした。その意味では接戦での集中力、後半戦の好調、先発投手の好調、守備力の向上が今年の成績につながったと思います。

また、パ・リーグでただ1チーム、10勝以上の投手が3人いることもあり大変人気が出てきました。楽天リサーチの調査で楽天イーグルスの人気は3位。それでも巨人、阪神にやや離れています、そのため2009年は若年層とのコミュニケーションの強化に取組みました。今後を考えるとお子様や若い方にも好きになってもらいたいと思います。

その取り組みとして子供たちに1万個のキャップを配りました。以前ニューヨークを当社の副社長が訪問し、ヤンキースのキャッシュマンGMに会った際に、同じように子供たちに帽子を配ったと話していたそうです。また、クリネックススタジアム宮城では年中、お祭りのようなイベントを開催し皆さんに楽しんでいただいています。また、試合開始前の球場外野フィールド内でのキャッチボール、これは大好評でした。観客動員はパ・リーグで最下位でしたがそれでも昨年より4.7ポイントあがっています。100万都市仙台ですので広島と同じです。広島は2倍程度観客を集めていますのでこれからの課題となります。

<楽天のボランティア活動>

ここからはスポーツボランティアの話題にうつりましょう。楽天イーグルスが誕生した際「強いチーム、地域密着、健全な経営」の3つのチャレンジを掲げました。その中で「市民参加型の球団運営」をめざし多くの皆さんに観戦者ではなく関与者になっていただきたいということから平成17年1月24日にボランティア制度の導入が決定しました。

ボランティア活動には5つのビジョンがあります。

ボランティア活動による市民参加型球団の実現

ボランティアの取り組みによる地域密着活動の実践

ボランティアがプロ野球チームを支えるモデルケースの発信

ボランティアを積極的に取り入れるプロ野球文化の普及

ボランティア活動とスポーツ文化の融合

エコボランティアとしてはエコステーションでゴミの分別などを呼びかけ、エコ活動の啓蒙をいただいています。この結果、2009年は23.3トンのCO2削減ができました。夏にはエコ検定や自転車発電などを体験し環境について考えるエコブースも期間限定で設置しました。さらに今年から新たな活動として座席案内ボランティアが始まり、お客様から好評をいただきました。本当に今年も多くの皆様にご参加いただきありがとうございました。

2010年度については1月12日から継続の募集をスタートし1月末から新規募集を開始し、活動説明会を2月中旬に行う予定となっています。スポーツボランティアはこれからでまだ発展途上ですのでどうぞこれからも一緒に作り上げていただきたいと思います。また、チームはバラエティに富んだ新人を加え、新しくブラウン監督が就任し、安定してAクラスということを求められます。チームビジョンは「Smart&Spirit」、科学的思考と開拓者精神で勝利を目指し自走できるチームになりたいと思います。来年もより一層チームをサポートいただきますよう、よろしく御願いいいたします。

2. 仙台市企画市民局 スポーツ振興課主幹兼事業推進係長 清水 義明 氏

<形の違うボランティア>

私は毎週土日に中学生の野球チームの監督をしています。もちろん、みなさんと同じボランティアとして活動しています。そんなわけで日常的に家族と旅行するとか買い物にいくとかほとんどやったことはありません。人からは監督は好きだからやっているのですよね？と言われる。しかし、たぶん好きだからだけでやっているというわけではなくて、何かしら自分がやることで役に立つことが嬉しいのですが、皆様はいかがでしょう。



<スポーツに関する意識調査結果より>

仙台市では行政とスポーツの関わりとしてスポーツ振興基本計画の中で「基本目標」を掲げています。この「基本目標」は3つの柱から成り立っています。

「する」：楽しむ、競う、交流するスポーツ活動

「みる」：国際的・全国的スポーツイベント開催、プロスポーツ観戦、身近なスポーツ活動の応援

「ささえる」：スポーツボランティア活動の促進、スポーツリーダー育成

その中で仙台市が平成20年に実施した「スポーツに関する意識調査結果」から、スポーツボランティアについて取り上げてみたいと思います。約3,000人に対して実施したこの調査では、まず「スポーツボランティア活動への参加状況」を世代別でみると、60～64歳の参加が最も多いことがわかります。次いで40～49歳となっていて、10代・20代が低くなっています。その内容は「大会・イベントの手伝い」が最も多く、その次に私がやっている「スポーツの指導・コーチ」があります。

一方、今後ボランティア活動に参加したいか、という質問では希望する人は2005年とかわらないものの、10代・20代で21%～22%と高くなっていて、これからに期待がもてますし、私達としても働きかけが大切と感じているところです。希望する活動内容では「大会・イベントの手伝い」がやはり高くなっています。スポーツ観戦に対する質問では、観戦したことがあるは2005年で31.8%、2008年では47.6%となっていて、楽天生の影響が大きく伸びています。しかし、50%以上もまだプロスポーツを一度も観戦した経験がないというのは驚きです。

<プロスポーツの連携>

なぜ仙台市がプロスポーツに関わるか、というひとつには地域の賑わいや活性化、次に子供たちの夢やあこがれにつながるからです。仙台にはサッカー・プロ野球・プロバスケットボールと3つのプロスポーツがあります。その経済波及効果ですが、楽天は125億円。ベガルタ23億円。89ERSは6億円の効果がある(宮城県調査)。とされていますし、間接的にはもっと地域経済への波及効果があると考えられます。そのプロスポーツを支える組織が連携し2007年に「仙台プロスポーツネット」が誕生し、さまざまな活動をしています。さきほどの調査では観戦経験のトップは楽天イーグルスの37%であり、2位はベガルタ仙台の13%、仙台89ERSは3%にとどまっています。今後もボランティアの皆様のお力をお借りしながら、より一層仙台のプロスポーツを全国に発信していきたいと思います。最後になりますが2010年1月にはbjリーグのオールスターゲームがグランディ・21のセキスイスーパーアリーナで開催されます、これに関連し東北大学にてbjリーグホームタウンミーティングを開催いたします。ぜひ、ご参加いただければ幸いです。本日はありがとうございました。

第二部 「変わるスポーツボランティアの世界」

幅広い地域とスポーツボランティア活動

3. 笹川スポーツ財団 企画部 課長 工藤 保子 氏



<スポーツボランティアの状況>

笹川スポーツ財団では「スポーツライフに関する全国調査」を実施していますが、さきほどの仙台市の調査結果と共通する点が多いのに驚きました。さて、調査に際し私達は「スポーツライフ」の現状を「する・みる・ささえる」というキーワードで把握しようと思いました。その結果、「するスポーツ」では、成人で年1回以上スポーツをする人が7割、10代で8割となっていました。これを週2回以上でみると成人では4割、10代では7割と学校の部活動の影響がみられます。次に「みるスポーツ」でスポーツ観戦を楽しんでいる人は成人で3割、10代で4割でしたが、「ささえるスポーツ」ということで過去一年間のスポーツボランティアの経験を聞くと、成人で6.7%、10代で13.3%にすぎませんでした。「する・みる」に比べ「ささえるスポーツ」への参加率はまだ非常に低いのです。スポーツボランティアの実施率を年代別にみると、10代・40代の次に30・60代が高くなっています、これに対し「実施希望率」（これからスポーツボランティアをしてみたい人の割合）をみると、10代が27.8%と圧倒的に高く、次いで40代、30代となっています。この結果から笹川スポーツ財団としては若年層の掘り起こしが必要と考えています。何故なら若いうちにスポーツボランティアを経験することで、年を重ねていくうちにさらにボランティアへの参加が盛んになっていくものと思われるからです。

笹川スポーツ財団ではスポーツのボランティアの分類を、イベントボランティア、クラブボランティア、アスリートボランティアの3つとしています。イベントボランティアは皆さんのようにスポーツのイベントをささえる活動をしている方々で、クラブボランティアとは全国に増えている総合型のスポーツクラブをはじめさまざまなスポーツ団体などで活動しているボランティアです。最後にアスリートボランティアとはトップアスリートが地域に出て行って自分の経験知識を話したり、練習に参加したりするもので、地域に埋もれているOB,OGのアスリートにもボランティアでやってもらいたいと思っています。笹川スポーツ財団では、現在イベントボランティアを主に事業を展開しており、今後はイベントボランティアをクラブボランティアにつなげたいと思っていますところ です。

<東京マラソンのボランティア活動>

ここからは東京マラソンについてお話しいたします。笹川スポーツ財団では2009年の東京マラソンまで3年間にわたってボランティアの運営をサポートして来ました。最初はマラソン大会運営の経験者が少ないので大変でした。また活動の中では一般ボランティアの満足度、達成感が大切だということを感じてきました。

大会の概要ですが2009年は3月22日に開催され参加ランナーが約3万5千人でした。ボランティアの活動はエキスポといわれランナーにナンバーカードや計測のためのチップなどを渡すイベントからはじまります。3日間開催されますがこの中でボランティアにもウェアなどが渡されます。ボランティア数が約1万3千人という紹介がありましたが、実際には事前の研修やエキスポなどに参加することが条件のため、この条件を果たせずに抜ける方もあり今年は12,170人となりました。毎年6~7%の辞退があり今回もその範囲内でした。

大会当日のボランティア活動は実に幅広く、受付・荷物預かり・給水からコースの整理、フィニッシュでのメダル配付まで様々です。参加しているボランティアはリーダーが810名、一般のボランティアが8,518名、

高校生が2,842人となっています。参加した高校生が楽しかったということで翌年一般のボランティアとして参加することもあり大変うれしく思っています。

実は東京マラソンが始まった2007年は、私達スタッフだけで全てのボランティアの対応を行い大変な思いをしました。その経験をもとに翌2008年にはボランティアリーダーを養成し一緒に運営を行いました。そして2009年からは更にリーダーの中から、この人ならばという方々にボランティア・キャプテンを御願いして協力いただき、非常にスムーズに運営することができました。残念ながら笹川スポーツ財団は2010年の大会には今の所関わらない予定ですが、ボランティアの体制は2009年と同じと聞いています。

<スポーツボランティアの普及と育成>

東京マラソンのボランティア活動を通じて「スポーツボランティアの普及および育成が大事」ということ、とりわけリーダー養成が肝心と考え、2005年から東京で養成研修会を開催してきました。2009年からは東京以外での開催が始まっています。そのきっかけは東京マラソンに参加した一般のボランティアが北海道でのマラソンでもできないか、と新聞社に投稿したのが始まりでした。同じように大阪、富山でも開催することが出来ました。北海道マラソンのリーダーからは、「自分が以前から不満に思っていたことを解決できリーダーとしてはやりがいがあった」という声をいただき、また「一般のボランティアへの声かけとかコミュニケーションが難しい」という意見もありました。

今後はリーダーのスキルアップ研修も大事になります。私達は現在AED研修・コミュニケーション研修のほか伴走や障害者対応のための研修をやっているところです。さらにコーディネイト事業として笹川スポーツ財団ではイベントをボランティアに紹介する「紹介型」や、募集申し込みまでを行う「募集委託型」、当日の運営までを引き受ける「運営委託型」まで3つのパターンの紹介事業を行っています。更に全国に向けての取り組みとしては「リーダーの養成・確保や、活動機会の提供」だけではなく、スポーツボランティア関連組織とネットワークの構築が必要と考えています。ぜひ、皆様とも一緒に出来ることがあればと考えていますのでどうぞよろしくお願いいたします。

4. うつくしまスポーツルーターズ 事務局 齋藤 道子 氏

<ルーターズ誕生の経緯>

今年私は8回も仙台に来ました。なぜきたかという、楽天イーグルスの試合で広島カーブがくるときは必ず来てカーブ側で応援しています。また、ベガルタの試合も見に来ました。ラグビーも好きで今年は母校筑波大と明治大の試合がありましたので観戦にきました。福島にもサッカーでは福島ユナイテッドというJリーグをめざすクラブもありますが、仙台が盛り上がると、福島はもりさがるという傾向にあって、バスで1時間できてしまい近くなった分、福島の元気がなくなってしまう気がします。さて私が事務局を担当しているルーターズとはなにかですが、意味としては「熱烈に応援する人々」「ささえる人々」というもので福島県のようなスポーツシーンを支えるスポーツボランティアのベースとなることを目指し、地域住民が声を上げ、行政が後押ししてできたものです。その母体は2004年に日本スポーツマスターズ福島大会があって約1,300人が活動しましたが、その後個人への再募集があり2005年に広域スポーツセンター事業として誕生、2007年秋にNPO法人として自立しました。現在の会員数は144人で登録会員は約300人となっています。



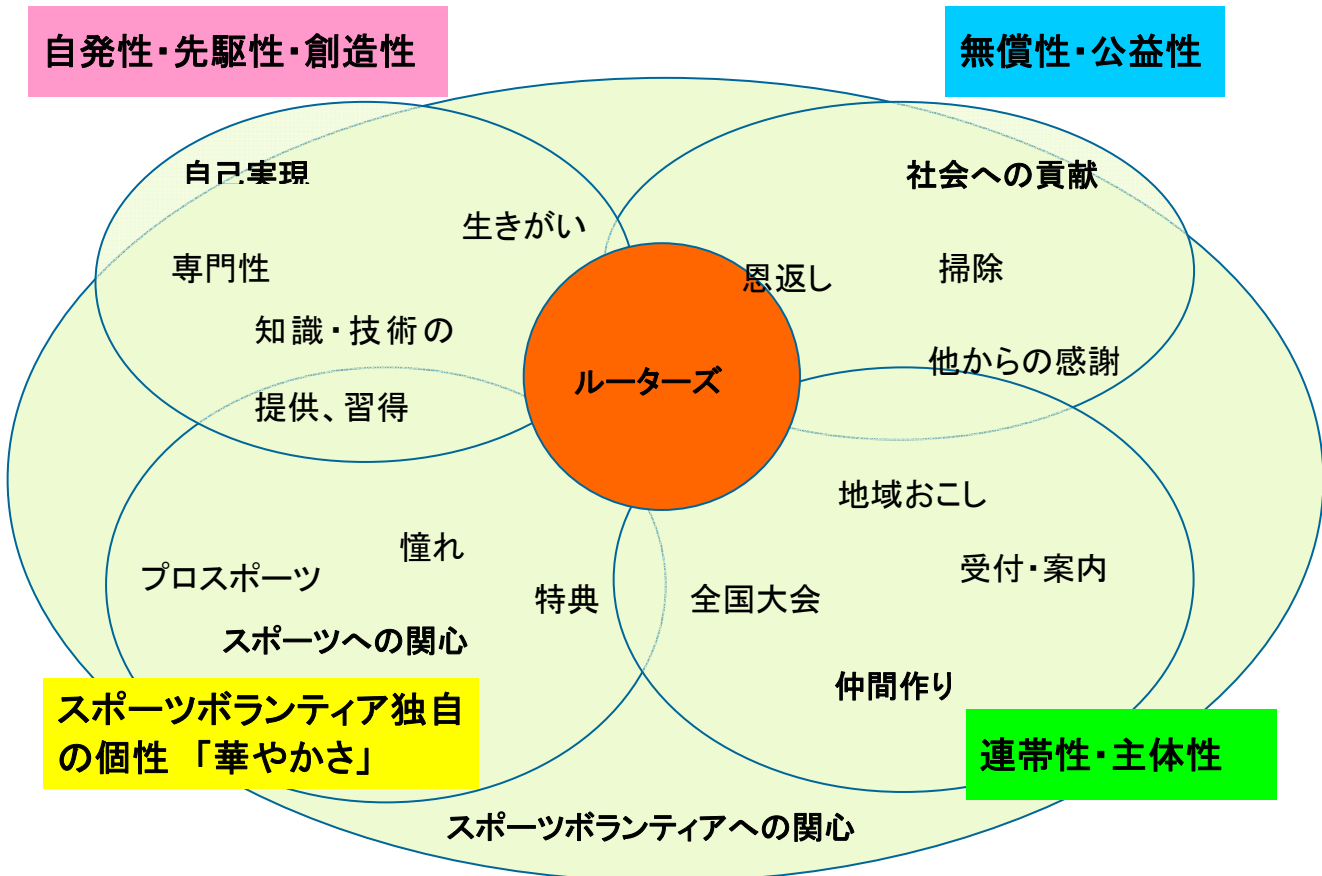
<ルーターズの活動>

ルーターズの活動はさまざまな福島県内で開催されるスポーツイベントのサポートが中心です。ウォーキングイベントの受付から楽天のボランティア、福島ユナイテッドや、スポーツキッズ発掘事業、クリーンウォーキングまで幅広い内容となっています。会員に希望する活動についてアンケートを実施したところ、「社会的意識の高い活動」が最も多く次いで「知名度の高いイベント」（楽天など）や「楽な活動」の順でした。「ルーターズ入会の動機」を整理すると「自己実現」「社会への貢献」「スポーツへの関心」「仲間作り」の4つに分かれていました。（次ページに図を掲載）

活動には様々なものがありその内容によって集まりも全然違ってきます。巨人戦のボランティアをやったときは駐車場係（試合前に終わり）でも多くの人が集まりました。参加している人は巨人の試合を手伝っているというだけで十分なのです。反面、巨人はプロ球団で儲かっているのに、ボランティアは要らないのでは、と言われ

ることもあり難しいものです。実は今までで一番人気のボランティアはプロゴルフでした。福島で3年連続同じコースで開催されたのですが、朝4時集合というとんでもない要求だったにもかかわらず、わかりやすい活動内容だったことや、コースの整理や練習時のボール拾いまで選手の近くで活動できることが人気の理由だったようです。大会は本当にいろんな仕事がボランティアによって支えられていました。

ルーターズへの入会動機



<今後に向けて>

スポーツボランティアの育成のために欠かせないのは、活動前のミーティング、終了後の反省会の徹底、適材適所の配置などがあります。2009年に猪苗代でFISフリースタイルスキーの世界選手権がありました。そこで雪だるま作りを地元の人たちがやったところ、世界中にテレビを通じて発信されました。このように成果が目立つことを任せるような発想が大切ではないでしょうか。また、この大会ではIDカードやスタッフジャンパーとかが参加したボランティアに満足感を与えました。これもまた事実です。ルーターズでは子供たちの参加をサポートする企画を担当しました。泊りがけでの活動は「仲間との時間」「自己判断や自己責任の範囲の拡張」などにつながり競技スポーツのすばらしさを体感しました。

スポーツボランティアにもいろんな側面があります。それだけに「継続の難しさ」を感じます。しかし、依頼する側が少し意識を変えてくれれば解決する部分も多いのです。多くの依頼者は「基本的にお手伝いであり、安い労働力」としてボランティアを求める気持ちと「ボランティアで手伝ってくれるのだから、大切にしなければ」という使命感の間で悩みます。そして結局「どこまで頼んでいいかわからない」「扱いづらい」となり、強く言えない分「自分勝手な行動が目につく」と感じます。私はもっと割り切ってもらっていいと思うのです。スポーツボランティアがイベントの運営に関わることは「地域への浸透の一手段」ですし、「マスコミが飛びつきやすく」「観客増のチャンス」にもなります。ボランティアをそういう方向で「利用して」欲しいと思います。そうなればボランティアの満足度も高まり、継続性も高まるでしょう。

【 文責 KI・AM 】



SV2004について

【誕生の経緯】

SVとは、文字通り「スポーツボランティア」の略であり、1998年からスタートした「ブランメル仙台」（現在はJ2ベガルタ仙台）のボランティアや2001年の国体、2002年のワールドカップ宮城大会のボランティア経験者の有志が集まり、幅広いスポーツをボランティアとしてサポートする目的で2004年に発足しました。

役割（ミッション）

スポーツをより楽しくコーディネートし、ネットワークを通じて、環境改善にも取り組むことでスポーツの振興と、スポーツに関わる人々の社会的認知を高めることに貢献します。

- 私たちはスポーツのボランティア活動は「楽しく」あるべきだと思います
- そのため、ボランティアと運営組織、ボランティア同士のコミュニケーションを大切にします
- 思いをともにする人々とのネットワークを構築します
- 活動するボランティア環境の改善、そしてエコ活動にも取り組みます
- サポートするイベントが継続しよりよいものになるようサポートします
- スポーツボランティアの活動が多くの人に理解し知っていただけるよう活動します

活動（アクション）

活動の記録・報告はSVホームページをご覧ください

- ★ スポーツ全般のコーディネート活動 … 楽天イーグルス・仙台89ERSボランティア組織立ち上げサポートなど
- ★ スポーツ及びボランティアのセミナー活動 … 接客・エコ・救命・災害・コミュニケーション・入門セミナーなど多数
- ★ スポーツに関する調査・企画・提案活動 … ボランティアアンケートの実施など
- ★ スポーツ情報発信活動 … SVニュース、ホームページからの情報発信など
- ★ スポーツネットワーク・交流活動 … 全国スポーツボランティアとの交流会の開催、東北スポーツボランティアサミットの開催
- ★ スポーツ環境改善活動 … チーム・マイナス6%との連動・エコステーションの普及取り組みなど

会員募集中！自主企画も含めたSV活動全般に参加するSV会員と活動趣旨に賛同するサポート会員があります

【入会方法】

- SV会員 … 年会費1,000円（年度は4月～翌年3月となります）
- サポート会員 … 年会費2,000円
- お支払い方法…郵便振込み 郵便口座 18190-25930651 SV2004まで（振込み料はご負担願います）
または、SVが主催するイベント会場にて入会を受け付けます。（イベントはホームページでご案内します）
- 申し込み先 郵送の場合 〒980-0811 仙台市青葉区一番町4丁目1-3 仙台市市民活動サポートセンター SV2004
レターケースNO. 50（必ずレターケースNOをご記入ください）
メールの場合 izumita@dm.mbn.or.jp FAX 022-274-1469
- 申し込み書はホームページよりダウンロードできます <http://www.miyagi-sports.net/sv2004/>

SVの活動と仙台のスポーツイベント <11月1日～12月31日>

- 11月1日(日) 楽天イーグルスボランティア芋煮会
 11月1日(日) ユアテックスタジアム祭
 11月5日(木) 仙台スポーツリンク・オールスターゲームボランティア打合せ
 11月7日(土) SV2004定例会(太白中央市民センター)
 11月8日(日) J2水戸戦にてベガルタ仙台J1昇格決定
 11月14日(土)～15日(日) 全国ホームタウンサミット in 新潟
 <別途、ホームページに報告書あり>
 11月15日(日) 楽天イーグルスボランティア感謝祭
 11月20日(金) 仙台スポーツを考える会
 11月25日(水) SV資料郵送(SVだより・イベント案内など)
 11月26日(木) 仙台スポーツリンク・オールスターゲームボランティア打合せ
 12月3日(木) 仙台市文化スポーツ部打合せ(12月20日イベント・後援)
 12月5日(土) ベガルタ仙台J2優勝決定
 12月6日(日) ベガルタ仙台優勝パレード・報告会
 12月8日(火) 仙台スポーツリンク・オールスターゲームボランティア打合せ
 12月12日(土) 89ERSホームゲームでペットボトルツリー作り
 12月16日(水) 仙台スポーツリンク・オールスターゲームボランティア打合せ
 12月20日(日) SV2004主催 スポーツボランティア・フリートーク・フェスタ <報告は1～6P>
 SV2004忘年会
 12月27日(日) セキスイスーパーアリーナ視察及び現場打合せ
 12月28日(月) 東北大学さくらホール視察及び現場打合せ



THANKS < 今月号のSVニュースの発行に対しご協力いただいた皆様、ありがとうございました。: 敬称略・順不同 >

♥ 楽天野球団 ♥ 仙台市文化スポーツ部 ♥ 笹川スポーツ財団 ♥ うつくしまスポーツルーターズ

☆ **スポーツボランティアの前向きな情報(募集・活動報告など)を募集いたします。経験をいかし、成功事例を学ぶ場としてSVニュース活用願います。(提供先は下記に記載)**

編集後記

2010年1月は記憶に残る月になりそうです。誕生6年目にして宮城で開催されるプロバスケットボールのbjリーグ「オールスターゲーム」、その前日に、もともと開催を予定していた山形・新潟・宮城のスポーツボランティアの交流企画「東北スポーツボランティア・サミット」が連動し、さまざまな人々・組織の協力のもとで規模を拡大して開催されるからです。詳細は私達のホームページにてご案内していますが、初日は講演や参加者同士が自由に話し合い、意見交換する分科会のほか、交流を目的とした懇親会も開催されます。そして、いよいよオールスターゲームでは、バスケットだけではなく様々なスポーツのボランティアが集まりオールスターボランティアとして観客の対応に当たる予定にしています。いつも活動しているスポーツでも場所でもないところで、各地の仲間と一緒に活動してどんな印象をもつのか、何が生まれるのかはわかりませんが、前向きな人々だからこそきつと各地に戻り、宮城での経験を語り、そこで得たつながりを活かしてくれるのではないのでしょうか。もちろん、迎える私達にとってもどんな刺激を得ることができるか、今から楽しみなことです。キーワードは「絆」、人と人との強いつながりです。

◆ このSVニュースはSV2004の公式ホームページでもご覧になれます。<http://www.miyagi-sports.net/sv2004/>

スポーツボランティア活動に関する情報をお寄せください。

◆ 情報提供先 izumita@dm.mbn.or.jp